

第2回協働推進委員会記録

日時	平成28年11月17日(木) 18:30~20:30
会場	豊明市役所本館3階会議室3A・3B
出席者	委員：青山孝司、天野ゆかり、石山英明、小池田忠、小島博司、羽田道信、濱田堯、樋口正紀、三矢勝司、矢澤久子(以上10名) 豊明市：市民協働課長、課長補佐兼協働推進担当係長、協働推進係職員(1名)

議事

委員長あいさつ

前回議論のふりかえり

- ・「第1回協働推進委員会記録」により、前回会議の内容を確認した。

1 報告事項

(1) 扶桑町住民活動支援センター視察について

- ・資料1に基づき事務局より報告をし、下記のとおり議論を行った。

- ・扶桑町の「拠点でなんのためになにをやるのか」といった運営理念について、豊明とは違う独自のものがあつたなら教えてほしい。
 - 独自のものはないように感じたが、メンバーが新しい人を巻き込む際に、「拠点でなんのためになにをやりたいのか」といったことが説明できないと巻き込むことができないといったお話は印象的であつた。
- ・「ソフト事業は他市町を参考」とあるが、扶桑町以外にあげられた市町の中で参考となりそうなどころがあつたなら教えてほしい。
 - 2市3町(岩倉市、小牧市、大口町、豊山町、扶桑町)のネットワーク化が進んでおり、各自治体の職員、各センタースタッフの情報交換や共有ができています。12月にはふれあい協働フォーラムも開催予定である。困ったときに相談しあえる体制ができていたことが強みであると感じた。
 - 2市3町は、協働分野以外の介護やゴミの問題等も連携ができていますか。今後豊明が近隣市町と連携していく際には、協働分野に限らず広範囲に連携していくことが重要である。
- ・P.4にある①住民活動支援センターの設置とプロセスにおいて、豊明市は現在どの段階くらいなのか。
 - 「平成25年3月：住民活動整備に関する予備会議開催」のあたりではないか。

・P.7 組織のところで正会員、賛助会員といった表記があるが、豊明市もこのようなかたちで運営していくのか。

→ これから拠点検討委員会で検討する内容ではあるが、ひとつの手法としてはあり得るのではないかと考える。ただし、果たしてこの手法が持続可能は運営なのかどうかはわからない。

(2) 拠点検討委員会の進め方について

・資料2に基づき事務局より報告をし、下記のとおり議論を行った。

・助成金ばかりに頼っているように感じる。独自で収入を生み出す努力がみえない。

→ 日本NPOセンターが整理しているNPOの収入のあり方には4パターンあり、会費、事業収入、助成金収入、委託事業による収入とある。それぞれの組織に得意不得意はあるが、助成金収入に頼りすぎていることは否めない。キックオフはいいかもしれないが、3年目以降収入源については検討しなければならない。

・市民活動室を拠点に走り出すということによいか。

→ そのとおりである。

→ 市民活動室を拠点にするということは、家賃はなしでよいのか。

→ 事業にかかる支出を確定させること、それに対する収入のあり方を考える必要がある。

・拠点検討委員会の第1回目に今まで行ってきたこと（拠点検討講座等）のふりかえりを行ったほうがよい。またボランティアセンターの活動紹介についても序盤に行ったほうがよい。

・県のNPO支援メニュー（ex.アドバイザー派遣事業等）を有効活用してみてもどうか。

・「相談日を設ける」というよりは、講座後に「よろしければ個別相談にのります」というように事業を組み合わせたほうが、利用しやすいのではないか。

・「市民協働課」、「協働推進委員会」、「拠点検討委員会」の位置づけについて教えてほしい。

→ 「協働推進委員会」は、「拠点検討委員会」への助言・評価を行っていただく。

→ 関係図はどのようになるのか。

→



→ なぜこのような質問をしたかという、第1回にめざすべき拠点のあり方が検討内容にあるが、いままでにこの協働推進委員会で議論してきた「めざすべき拠点のあり方」についておろしていくと考えていたが、そうではなくて人選した人たちがまた新たにめざすべき拠点のあり方を検討していくと、今までの議論はどうなるのか。

→ 協働推進委員会は、豊明すべての協働推進について議論を重ねてきている。この3月には、第2次豊明市協働推進計画を策定しており、その中にめざすべき拠点のあり方等についておおよそのアウトラインは描いている。この気持ちを汲んで拠点検討委員会を進めていってほしいと考えている。拠点検討委員会も計画に基づいて発足する予定である。

- ・拠点検討委員会の会長になる人には報酬を支払うべきである。
- ・何年後かには委託や指定管理等、独立していく方向なのか。そうでないと成長していかない。
- ・拠点検討委員会の進捗状況はいつわかる。
 - 次回を平成 29 年 2 月に開催予定であるため、そのときに報告する。
- ・拠点検討委員会は、豊明の豊明市民による拠点のめざすべき姿について策定してもらうための委員会であるため、行政の一定程度の制約はある。一方で協働推進委員会から拠点検討委員会へ提言していくことは可能である。

(3) 区長連合会活性化事業について

- ・資料 3 に基づき事務局より説明をし、下記のとおり議論を行った。
 - ・愛知工業大学地域防災研究センターに視察へ行っており、「豊明は水に一番困るのではないかと指摘を受けているが、関係部署に情報提供はしているか。最近水が増えたので情報共有できているのであればいいことである。
 - ・区長たちが課題について主体的に関わっていることがよいことである。

(4) 協働推進職員研修事業について

- ・資料 4 に基づき事務局より説明をし、下記のとおり議論を行った。
 - ・協働推進職員としての成果を評価する仕組みはあるのか。
 - ない。
 - 評価する仕組みがないとモチベーションがあがらないのでは。
 - ・市民側から協働の推進状況について評価する仕組みがあるとおもしろいのではないか。
 - ・協働の現場で、市民の声を一人でも二人でも聞いてくると、協働の段階が可視化されやすくなるのではないか。またモチベーション向上にもつながるのではないか。
 - ・「市民の声をひろう」という業務を入れてもよいのでは。
 - ・地域協働拠点は、協働推進職員のたまり場にもなるとよい。
 - ・協働ラベリングの目的はまず現状を知ること。その次のステップとして各課に主体性をもたせるため、ラベリングシート記入に「レベル UP できるもの○」があるが、その次のステップについてもっと考える余地はあるのではないか。
 - この結果をきっかけに各部署とコミュニケーションをとって改善していくことは可能である。

2. その他

次期協働推進委員会委員について

平成 28 年 12 月 16 日（金）までに市民協働課へ委員継続確認の回答をお願いします。

次回は 2 月を予定。会議内容調整後、ご案内予定。